

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

将来の夢である保育士になるための勉強ができる大学をインターネットで調べていたところ、同志社女子大学の現代こども学科に魅力を感じたからです。また、母の勧めもあり、同志社女子大学を受験することに決めました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕 私は古典が苦手だったので、一番早い段階で古典の勉強を始めました。推薦入試を受けることに決めてから自分の不得意科目である古典が受験科目であることがわかり、苦手を克服する必要があると思ったからです。文章の内容をしっかりと理解しながら読むことを意識すると、少しずつですが読めるようになっていきました。

〔夏休み〕 夏休みは古典の勉強に引き続き取り組みました。問題を解くだけでなく、それ以外にもあらゆる古典の作品を読みました。この頃から古典を楽しめるようになり、とても勉強がはかどりました。また、得意科目を伸ばすことも意識し始めました。特に英語はスピードを重視してひたすらたくさんの文法問題を解きました。語彙力をつけるためにわからなかった単語や熟語は毎度調べ、頭に入れるようにしました。長文問題にも取り組み、速く読む力を鍛えました。

〔2学期～入試直前〕 入試が近づいてくると、同志社女子大学の推薦入試の過去問に取り組み始めました。入試の出題の方式や過去にどのような内容の問題が出題されたのを知り、それに準じた勉強を心がけました。入試の出題傾向を知ることが効率よく勉強することができました。また、毎日英語と国語の過去問を解き、前日からの点数の伸びを確かめることは自信をもつことにも繋がっていきました。入試本番は今まで自分のやってきたことを信じ、焦らないことが何よりも大切なことだと考えていたので、心に余裕を持たせて受験に臨むことができました。特に古典の苦手を克服できたことが自分の中で大きな自信となりました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

部活との両立は私にとって大変なものでした。部活が終わり、家に帰ってから勉強していると夜遅くまでかかってしまい、寝不足になることもありましたが、しかし部活を引退してからは勉強に集中することができ、健康にも気を使えるくらいの余裕が出てきました。規則正しい生活を送しながら勉強をすることがとても大切だと思います。私はテレビを見ると時間を忘れてしまうので、テレビはほとんど見ませんでした。その代わりに1時間勉強したら5分間休憩してスマートフォンを使用するというルールを自分の中で設定していました。長時間勉強するときは少し息抜きの時間を入れると集中しやすいと思います。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は明確な目標があったから本気で勉強ができました。自分自身のゴールを見つけることは努力することにおいてとても大切なことです。「そのためなら苦しくても乗り越えられる!」というものを試してみてください。「受験勉強」という経験は絶対に無駄にはなりません。努力は自分の自信になります。無理だからと諦めないでください。応援しています。